

2023年4月の開学目指す県立大学、準備進む

県が開学を目指す県立大学。学と高校の連携を見据えた取の準備が進んでいる。県立大組やシンポジウムを開催し、学は佐賀市八丁畷町に開学した。設計業者も選定し、ソフ。学長予定者も決まり、カトとハードの両面で事業を進リキキュラムの検討と併せ、大めている。



「第1回さが探究プレゼン大会」で発表する県内の高校生＝3月18日、佐賀市

「地域とともに成長する大学」へ

県内の高校との密接な連携は、県立大学の大きな特徴の一つ。県立大学の課題解決型学習（PBL Learning）と高校の探究学習を軸に連携することで、大学と高校双方の教育の質を高めることを目指している。3月には県と県教育委員会の共催で「第1回さが探究プレゼン大会」を開き、26チームが参加した。

海洋ごみの問題と唐津焼を組み合わせたユニークな環境保全案を発表した唐津西高と、防災をテーマとしたビジネススクームを提案した早稲田佐賀高が最優秀賞に輝いた。審査員を務めた学長予定者である山口和範・立教大教授は、学外での学びと教科学習をうまく循環させることの大切さを強調した。

7月には県民参加型のシンポジウムを開催。県内のさまざまな分野で地域づくりを担うパナリストと、大学が地域とともに成長するにはどのような視点や取組が必要かについて語り合い、約2500人が参加した。山口教授は「地域の

人々と一緒に課題解決に取り組むことで、学生は成長し、佐賀県自体も変わっていく。そんな大学を目指したい」と語った。政策部は「地域に愛され、地域とともに成長する大学を目指し、開学に向けて準備を着実に進めていきたい」としている。



シンポジウムで意見交換する学長予定者の山口和範教授（左）とパナリストたち（7月9日、佐賀市内）